

# 絵手紙 フェスティバル 2018

~絵手紙には十人十色の楽しみ方がある~

(前期) 2018年3月2日(金)~9日(金)

(後期) 2018年3月23日(金)~30日(金)

(時間) 10:30~17:30 ※会期中無休・入場無料

会場・主催 大崎ウエストギャラリー

2010年より2月3日の「絵手紙の日」に合わせて毎年さまざまな絵手紙愛好家のみなさんにご出展いただき、開催してきた『絵手紙フェスティバル』も本年で9回目を迎えます。2018年は、会場の増設により、出展数を増やし、全国から36名(グループ・団体等を含む)のみなさまに出展していただきます。

これを機にひとりでも多くの方々に、絵手紙を好きになっていただけたらうれしいです。

主催者



## 岡田教室(金曜クラス)

今回は病と戦いながら絵手紙を続けられている休部中の長谷川の子さんも参加して下さいました。不自由なお身体にも拘わらず、「楽しいし、リハビリになるから」と一生懸命取り組んでいる彼女の姿から、絵手紙の力って凄いなーと教わりました。これからも絵手紙をかいて交流を楽しんでいきたいと思っています。



## 森千景と木の花会の仲間たち

「木の花会」各教室の有志の方々と参加させていただきました。言葉の力、筆文字の力、伝える力を大切に、全国の達磨に力をいただき、十年後の自分を応援する絵手紙になりました。心はいつまでも青春です。



## 香川道子とろまんのか

手でかき、手で伝えて、手であそび、もっともっと自由に楽しむグループです。日々の暮らしの中で心豊かになるよ。さあ「この指とまれ」心はずんでいきます。



## 北川長一郎

同級生の訃報が届く年代になりました。次は自分の順番かもしれません。ですから毎日を大切に過ごしていかなくてはなりません。僕にとって毎日描く絵手紙はここまで生きてきた証です。そして自省の絵手紙です。絵手紙とともに残りの人生を心豊かに歩んでいけたらと思っています。



## 深沢紅燼

ギリシアの伝説の島、ロードスの城門印の連続押し作品。1つの印でどこまで表現できるか挑戦しています。“自由に印を彫って自由に表現する遊印アート”を創始し、現代の芸術印を追求して25年がたちます。2018年から日本遊印アート協会の新代表は沖紅千に、私は顧問となります。これからも宜しくお願い申し上げます。



## 梅坪仁実

「学ぶことの楽しさ深さ、そして交流の楽しさ」を教えてくれた絵手紙! なんて素晴らしい世界でしょう。私の元気の源です。これからも墨の香りに包まれた幸せ時間を大切に「心を贈る便り」を愉しみたいと思います。



## 地球・絵手紙ネットグループ

地球・絵手紙ネットグループは、絵手紙を描く場合に、鉛筆、ダーマトグラフ、サインペン、割箸、毛筆と5つの筆記用具を基本として分けて描きます。モチーフがやさしいものでは鉛筆を、基礎的な表現をするものにはダーマトグラフを、気軽に描きたいものにはサインペンなど。今回は、5つの基本用具を使って、5人の会員の出展をさせていただきました。



## 新堂みど吏

心の枠を取り払い、もっと自由に、もっと…広げて描いたつもりが、まだまだと感じる。それが嬉しく、次への力が湧き上がります。心より添いやさしく描けないかなーと心地良い私の時間覗いてみて下さい。



## 伊勢「い・い・とも会」

いよいよ全国大会が我が町、伊勢市で開催されます。この喜びを、この興奮を、伊勢の魅力と共にひと足先にお伝えしたい。地元ならではの目線で御案内~! 絵手紙を愛する全国の皆様、私の大好きな町、伊勢へ来てなあー。



## 沖紅千(日本遊印アート協会主宰)

古代・タイ国の仏の輝きに魅せられて消しゴム印と絵手紙をコラボしてみました。日本の仏様とは違った面白さが表現できたかと思えます。



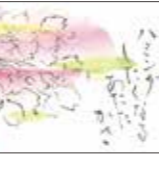
## 松尾ちゑ子と中野のなかまたち

仲間の一人が見せてくれた掌にのる中国の玉。ペンダント程の大きさの、乳白色の平べったい玉の両面には、手を交わし踊る二人像と蓮花と踊る人物が彫られていた。素朴な姿は実に楽しい。掌にのせ包み込めば蓮花と踊る母の言の葉が——。その声を心で聞き筆をとらずにはいられなかった。



## 清野章子

四季のある国に生まれた喜びを味わいながらささやかな日々の移ろいの中での発見と驚き、感じたままに絵手紙にかき続けました。小さな幸せをいっぱい届けられたらと…。



## 絵手紙シールぺたんネッス

第8回絵手紙シール、2018年度カレンダーのご支援に心より感謝申し上げます。秋には熊本国際民芸館へ。九州北部豪雨被災地へ現地ガイドさんの同行で知る現状の悲惨に愕然。ご支援への感謝と現地報告等を展示します。「今私たちに何ができるのか?」2018年は7年目を迎える東日本大震災被災地訪問と交流を予定しております。



## 吉川みか

絵手紙に出会って20年を越えました。過去、習い事は何をやっても続かなかったのに…。我ながら、びっくりです。ずっと、全力で走って来たわけではありません。亀の如く、歩みの遅い時もありました。空飛ぶ勢いの時もありました。今はコツコツ毎日一歩ずつ。私にとっての絵手紙は、歩々(ほぼ)日記です。



## 小林生子と絵手紙教室

小林教室、今回は絵手紙で綴る「だるま市」。全国どこにでもある「だるま」をテーマに選びました。眉、目、鼻、口、髭、各々のパーツが作り出す思いの表情と組み合わせられた言葉をお楽しみ下さい。お気に入りの1枚があなたにとっての縁起物。会場でお待ちしています。



## 宮脇泰彦

16年前に、タオルを掴んで大きな文字を描いた事が『タオル筆』の誕生に繋がりました。「全国タオル筆で描く絵がみコンクール」では、皆様に大変お世話になっています。「日本タオルの発祥の地=泉佐野(泉州)」地元を元気に! 絵手紙の更なる発展を目的に続けていきたいと思っています。宜しくお願い致します。



## 浅倉須眞子と荻窪絵手紙の会

先人たちのやってこられた方法を学び、私たちひとり1人が出来るやり方で楽しみながら絵手紙にしてみました。



## 兼岩幸恵

いい線が引きたい。いい書がかきたい。いいものって何でしょう。いいものは一つではない。いいもの探しの筆修業です。



2018年も2月は下記の2つの特別企画展を開催いたします。お楽しみに!

## 山路智恵 絵手紙展

# オリンBIG東京百景Ⅱ

日時 2018年2月1日(木)~10日(土) 10:30~17:30  
※最終日16時まで

2016年1月からスタートし、1年間に25点、4年間で100点を目標に制作中の「東京百景」。

2年目の今年は折り返し点に達し、今回の個展では最新の25点を展示します。2020年東京オリンピック・パラリンピックを絵手紙で盛り上げたい。東京の魅力、日本の良さを世界中の人たちに伝えたいという思いで、量大の大きな和紙にかいています。

2017年も、春夏秋冬、東京の風を感じながら、たくさんのお会いがありました。これからも絵手紙で東京の魅力を再発見しながら、笑顔で歩き続けます。皆さまのお越しをお待ちしております。

## 田口孝夫と ハハハ笑顔の絵手紙スケッチ 展

～『東京百景』 目指して奮闘中～

日時 2018年2月16日(金)~26日(月) 10:30~17:30  
※最終日16時まで

田口孝夫の絵手紙スケッチ会は2016年春、『東京百景』を目標にスタートいたしました。ご参加いただく皆さんには毎当日かいた絵手紙を1枚ご寄贈いただいております。2020年東京オリンピック・パラリンピックを応援したいと考えております。

凍えるような寒さの中でかじかむ手を必死に動かしながら描きました。真夏の炎天下の下で汗を流しながらスケッチした日もありました。そんな皆さんの奮闘の成果をぜひご覧ください。

田口講師と総勢92名の絵手紙スケッチで、東京観光をお楽しみください。

### 主催者からのお願い

毎年、絵手紙フェスティバルには遠方からもたくさんのお客様にご来場いただき誠にありがとうございます。

今回も、特に平日の午前中を中心に大変な混雑が予想されます。お時間に余裕のあるかは、お昼以降にお越しいただけますと、比較的ゆっくりとお買い物もお楽しみいただけるかと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

また、開催期間中は講習会スペースを交流会場として一般開放しております。簡単ではございますが、お飲物(セルフサービス)もご用意しております。出展者やお友達とのご歓談などにご利用いただけましたら幸いです。皆様のご来場をお待ちしております。

# ETEGAMI FESTIVAL 2018

(前期) 2018年3月2日(金)~9日(金)

出展者(グループ)紹介

## メグズにメンズ展 ―絵手紙花の会―

絵手紙花の会のメンズの作品展です。皆マイペースで静かに楽しんでいる人、熱い心を印象強く表現する人、頻繁にやりとりをしている人、病気をしても続けている人等さまざまですが、自分の気持や事柄を個性的に手紙に託して相手に伝えています。男性の立場からの目線や言葉が魅力です。



## 中井桂子

絵をかくというのは、自分自身の人生の一コマの記録の品物をつくっているようなもの。大切なことは偽りの記録ではつまらない。絵をかくという行為の中には、自分を自分以上に良くみせようとしたり、周りの人を意識したり、なかなか正直な絵はかけない。いつか自分に正直で素直な心で絵も字も文もかけるようになりたい。



## 絵手紙とはんこのコラボ教室

私たちは出来る事は伝えていこうをモットーに6名の講師で教室をやっています。絵手紙、消しゴム印、彩玉ボード、クラフト、アート表現、布での遊び、にぎやかな教室です。

江口春畝 岡本サヨ子 齋藤サダ  
須賀紅翠 高津紅林 本田和郷



## 田崎弘子

葉書を舞台に遊び心が弾みます。フェスティバルに参加し、新しい自分に出会うような気がしています。熊本からの風を感じていただければ嬉しく思います。



## 金子洋子

絵手紙が大好き!楽しいーがモチベーションとなって行動へとつながってきました。実物を見て感じて手が動いて心がワクワクします。きっとその積み重ねこそが自分を育ててくれるのでしょう。小さなハガキの中にいろんな力が秘められています。今日のありのままを筆墨と共に。



## 玉田英子

現代版「開通褒斜道刻石」 国道134号線の久里浜からハイランド入口の坂道に「斯里古須利坂開鑿記念碑」という高さ2m程の石碑があります。漢文でよく分からないながらも、険しい山に道ができた。「やったー!万才!」の声が聞こえてきそうな勢いを感じました。中国の刻石よりずっと新しいのですが、喜びに沸く人間性は全く変わらないものだとうたわれました。



## 鈴木榮重

平性25年10月19日から喜寿記念に遍路を始めた。徳島、高知、愛媛松山51番霊場、石手寺まで1ヶ月で750km、1,250,980歩までで持病が悪化し断念帰宅。2回手術入院。2年経過して体力は回復したが、気力はまいち。好きなこと、楽しいことも元気が元と痛感。遍路で唱えた般若心経の続きを椿に書き納経している。



## 徳勝弘江

紙で凹凸を作り乾拓でとる紙版画を思いついて瓦當や画像磚を楽しんでいます。紙は扱いやすくハガキサイズにも大きくも表現できるので植物や仏像にも挑戦しました。ヘタでもいい、自分らしくと思っています。



## 浅田美知子

絵手紙の極意の1つは人を恋い、自分を恋いて、ともにつながっていること、ともに今あることを感謝しあえる心にあるのではと…。そして、その時々を思いを筆で記せることをしみじみ有難いと思うのです。



## 竹内伸子

「旅の感動を七連ハガキに」  
10年ほど前から動物園や博物館のスケッチ、旅の思い出を七連綴りのハガキに残しています。一冊は小さくて薄いけど、年月と共にずっしりと思いの詰った宝物になりました。



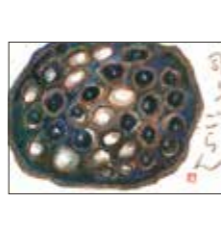
## 岡田由佳と荒木万里

出会って17年。子育ての悩みを語ったり定形外の絵手紙を毎日交換したり、スケッチに出掛けたり、共に刺激し合って歩んできました。今年、三重県伊勢市で開催する絵手紙友の会全国大会が終わったら二人で旅行に行こうと計画中です。水族館スケッチやお雛様のつぶやき絵手紙などご覧下さい。



## 原まりと仲間たち

みんな違う、それがいい。個性豊かな仲間達。同じ事を学んでもこんなに違うという見本のような教室。月に一回のミニフェスティバルです。



## 植木啓子絵手紙教室

今回は板橋教室の皆さんのこより絵手紙を展示します。日々の暮らしに寄り添う絵手紙の素晴らしさを日本の文化でもあるこよりで表現しています。新聞紙を使ってこよりの作業はとても素朴で手の温もりが加わり味のある絵手紙に仕上がります。これからもこよりの楽しさを発信してゆきたいと思います。



## 桜井幸子

昨年10月に群馬県高崎市の石碑群「上野三碑」が世界記憶遺産に登録された。地元は喜びに包まれたという。17~8年前になるだろうか。何度かこの碑を訪ねたことがある。飛鳥、奈良時代の碑に出会えた喜び、感動を今でも忘れない。偶然にも「絵手紙線の勉強法」に掲載できたことは大きな喜びである。感動に出会う旅、いつまでできるでしょうか。



## 柿沼佑子と仲間たち

動かなければ出会えない。小池邦夫先生の言葉通り動けば何かに出会う。岩槻に住んで40年余。いろんなことに目をむけた。一番気になるのが瓦鍾馭。現在屋根の上に11体の瓦鍾馭がのっている。描くには個人情報も件もあり難しいとのこと。役所の了解を得て模写する。これからもわが町の遺産を絵手紙で描き残したい。



## 峯 譽

2017年あなたはどんな年でしたか?  
米国で、欧州で、アジアで政権がチェンジ、「一強多弱」が続く日本、希望はしばみ、謙虚、丁寧、真摯の言葉が飛び交い様々な新制度がスタートした。そんな2017年のあんなこと、こんなことをいろいろカルタで振り返ってみました。



## 鈴木啓子&福地喜美子

絵手紙をかいていなかったら出会うことなかった二人です。出会ってただ交流するのではなく学び合い、成長し合って実りがあれば幸いです。



## 今井洋子

展示する絵手紙は小池邦夫先生の通信講座で先生と交流したものの一部です。読み返せば遠く過ぎた日々の自分の気持が昨日のように思い出されます。拙くても自分の手でかくということは、その人の命を残すことかも知れません。今では私が私を知る大切な宝物となりました。

